

No. J2305

無形文化の複層的資源化：タイ北部リスの舞踊にみる持続的開発の戦略

東京都立大学大学院 人文科学研究科 博士後期課程

内住 哲生

本研究活動では、2022年度から2023年度に亘り、タイ北部の少数民族「リス」の人々の音楽・舞踊の継承・振興活動に注目して調査を実施した。その結果主に次の2点が明らかになった。

- ① リス文化の「持続可能性」の表象
- ② 伝統音楽継承における「山地」という立地上の課題

まず①の点について、リスや他の少数民族の文化振興においては、持続可能性が一つのキーワードになっていることが明らかになった。リスをはじめタイの山地に生活する少数民族は、もともと中国の南方から開拓型焼畑を生業としながら移動し、タイに流入してきた背景がある。加えて彼らは山地でケシを換金作物とし、アヘンの販売などを通して通貨を獲得してきたため、2000年代初頭まで「森林の破壊者、薬物の売人」という否定的なイメージを付与され、タイ国の森林局から管理の対象とされてきた。

しかし、このような否定的な表象は近年塗り替えようとされつつある。2023年11月にチェンマイ文化芸術館にて行われた山地民文化振興イベントでは、リスやアカ、カレンといった少数民族が音楽や舞踊を披露し、各民族のプロモーションビデオが上映された。これらの映像において、共通して自然と共に生きる、持続可能な生活様式を切り取る表象がなされていた。また、2024年3月に行われたリス文化振興のイベントにおいても、「リス文化の持続的継承と発展」というタイトルがつけられていた。このように、今や彼らが自らを表象する上で「持続可能性」は一つのスローガンとなっている。

次に②の点について、山地の村落には小学校はあるものの、中学校以上の学校は平地にあり、青少年たちは家族ごと平地に移住するか、全寮制の学校に入り平地で生活する。このため日常的な継承活動が難しい。またタイ北部は公共の交通機関が発達しておらず移動は自家用車で行われるが、タイでは日本よりもガソリン代が高いため、一堂に会して継承を行うには経済的な負担もかかる。